

事業目的・概要等

背景・目的

- 廃棄物処理システムにおいて排出割合が特に大きな廃棄物処理施設について、施設の計画・構想段階から、廃棄物エネルギーを有効活用するための検討をする枠組みが必要である。
- さらに、収集運搬・中間処理・最終処分等に渡る廃棄物処理システム全体の低炭素化・省CO₂対策を促進する必要がある。
- そこで、廃棄物処理システムにおける低炭素・省CO₂対策を普及促進するために、各種検討調査を行うとともに、廃棄物焼却施設等からの余熱や発電電力を有効利用し、地域における低炭素化及び防災能力の向上等を図る。

事業概要

- (1) 廃棄物エネルギー地域利活用計画策定検討調査 (100百万円)
- (2) 廃棄物処理システムにおける低炭素・省CO₂対策普及促進事業 (FS調査・ガイドライン策定事業) (200百万円)
- (3) 廃棄物焼却施設の余熱等を利用した地域低炭素化モデル事業 (余熱の有効活用に係るFS調査・設備等導入補助) (400百万円)
- (4) 廃棄物発電電力を有効活用した収集運搬低炭素化モデル事業 (200百万円)

事業スキーム



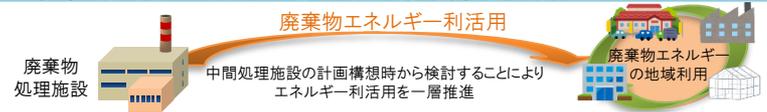
- (3) FS調査：定額、設備等導入：1/2補助
 (4) 給電・蓄電等システム：1/2補助、EVパッカー車：差額の2/3補助
- 実施期間：(1) 平成28～30年度 (2) 平成30～32年度
 (3) 平成28～32年度 (4) 平成30～34年度

期待される効果

- 収集運搬・中間処理・最終処分に渡る廃棄物処理システム全体における低炭素化・省CO₂対策の促進
- 廃棄物焼却施設等による未利用熱及び廃棄物発電の有効活用 (CO₂削減量：当該年度6,395t-CO₂、2030年度 約22万t-CO₂)

イメージ

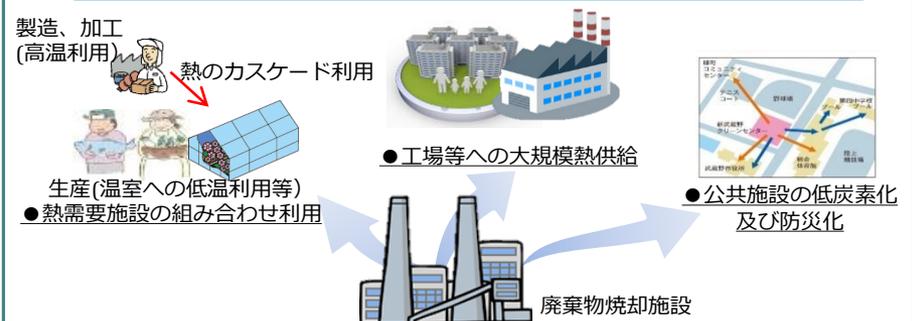
(1) 廃棄物エネルギー地域利活用計画策定検討調査



(2) 廃棄物処理システムにおける低炭素・省CO₂対策普及促進事業



(3) 廃棄物焼却施設の余熱等を利用した地域低炭素化モデル事業



(4) 廃棄物発電電力を有効活用した収集運搬低炭素化モデル事業

